

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和2年6月1日※1
(前回公表年月日: 令和2年5月1日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
専門学校 岡山情報ビジネス学院	昭和61年7月26日	学院長 榎原 俊章	〒700-0024 岡山県岡山市北区駅元町1-4 (電話) 086-224-2336																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人三友学園	昭和61年7月26日	理事長 野津 基弘	〒700-0024 岡山県岡山市北区駅元町1-4 (電話) 086-224-2336																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
工業	工業専門課程	情報スペシャリスト学科	平成16年文部科学省告示 第23号	無																							
学科の目的	日々進化する情報処理業界で活躍するために必要となる、実践的かつ専門的なチームでのシステム開発における知識やプログラミング、技術力、専門力を証明する高資格の取得を目指す。また、企業や組織での業務知識を学び、ヒューマンスキルの高い上級システムエンジニアを育成する。																										
認定年月日	平成28年2月19日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
3年	昼間	2679時間	1307時間	597時間	775時間	0時間	0時間																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
75人	120人	1人	3人	6人	9人																						
学期制度	■前期:4月1日～8月31日 ■後期:9月1日～翌年3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績評価はS、A、B、C、Dの4段階科目終了時に試験、レポート等で評価																							
長期休み	■夏季休業日:8月5日～9月1日 ■冬季休業日:12月23日～翌年2月16日 ■春季休業日:3月2日～3月15日		卒業・進級条件	次の項目を全て満たすこと ・必修50科目、総時間2679時間を履修すること ・出席率90%以上 ・科目の成績評価が全てC以上 ・卒業基準検定に合格(情報処理技術者能力認定試験2級、C言語プログラミング能力認定試験2級、Java™ プログラミング能力認定試験2級のうちいずれか一つ合格)すること																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 電話連絡、保護者面談、家庭訪問等		課外活動	■課外活動の種類 新入生歓迎会、スポーツ大会、学園祭、東京研修 ■サークル活動: 有																							
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和元年度卒業生) 就職先: 株式会社ラック、株式会社カオナビ、テラスカイ株式会社、富士インフォクスネット株式会社、サービス&セキュリティ株式会社、セリオ株式会社、株式会社システムエータープライズ 他 業界: ソフトウェア業界 ■就職指導内容 担任教師とキャリアサポート室が連携し学生の進路選択のサポートを行う。併せて就職対策講座により教養・面接対策等を行う。		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業者に係る令和2年6月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基本情報技術者試験</td> <td>①</td> <td>26人</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td>情報処理技術者能力認定試験2級</td> <td>③</td> <td>26人</td> <td>26人</td> </tr> <tr> <td>C言語プログラミング能力認定試験2級</td> <td>③</td> <td>26人</td> <td>21人</td> </tr> <tr> <td>Javaプログラミング能力認定試験2級</td> <td>③</td> <td>26人</td> <td>17人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	基本情報技術者試験	①	26人	20人	情報処理技術者能力認定試験2級	③	26人	26人	C言語プログラミング能力認定試験2級	③	26人	21人	Javaプログラミング能力認定試験2級	③	26人	17人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																								
基本情報技術者試験	①	26人	20人																								
情報処理技術者能力認定試験2級	③	26人	26人																								
C言語プログラミング能力認定試験2級	③	26人	21人																								
Javaプログラミング能力認定試験2級	③	26人	17人																								
中途退学の現状	■中途退学者 3名 平成31年4月1日時点において、在学者104名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者101名(令和2年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 学業不振のため、進路変更のため ■中退防止・中退者支援のための取組 定期ガイダンスの実施、クラス行事・学校行事への参加、家庭との連携等		■中退率 2.9%																								
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: (有)無 ・OIC特別奨学金制度(本校入学者を対象に実施) ・後期授業料免除制度(本校入学後、所定の条件を満たす者を対象に実施) ■専門実践教育訓練給付: 給付対象、給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: (有)無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL) https://www.oic-ok.ac.jp/assets/document/about/2019.pdf																										
当該学科のホームページURL	URLhttps://www.oic-ok.ac.jp/course/information_specialist/																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

IT技術者として、ユーザーが求めるシステムを構築するために、高い技術力と豊かなコミュニケーション能力を備えた人材の育成を目指す。そのために、システム化に向けた動向やシステム開発技術についての知見のある方々に教育課程編成委員を依頼し、システム業界を中心に、ソフトウェア開発における実状と求められるスキル等について意見や提案をいただき、カリキュラム・授業計画等に反映させる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

高度なIT技術者(ネットワーク技術者、情報セキュリティ技術者、データベース技術者)育成のために、システム業界関係者および岡山情報ビジネス学院関係者で構成された「教育課程編成委員会」を岡山情報ビジネス学院内に設置する。年間2回以上開催される委員会にて教育課程の編成に向けた意見・助言等を受けカリキュラム等の開設・改善・工夫等を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
榊原 俊章	専門学校 岡山情報ビジネス学院 学院長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	
高岡 信吾	専門学校 岡山情報ビジネス学院 常務理事	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	
中上 篤	専門学校 岡山情報ビジネス学院 教務第2課 課長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	
伊藤 宏一郎	専門学校 岡山情報ビジネス学院 情報スペシャリスト学科 学科長代理	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	
新免 國夫	一般社団法人データクレイドル 代表理事	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	①
三宅 一郎	株式会社システムエンタープライズ 代表取締役	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	③
坂本 康久	システムプロダクト株式会社 代表取締役	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

2回(例年の開催時期は、9月、1月)

(開催日時)

第1回 令和1年8月29日 16:00～17:30

第2回 令和2年1月24日 16:00～17:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

<委員会意見より現在実施中項目>

・学生のチャレンジとして、様々なコンテストに応募が必要だと思う。何か課題や枠組があって、それに学生が参加していくというのがやりやすい。

⇒第3回専門学校HTML5作品アワードに、2年生から1チーム参加し、バルデス・モバイルテクノロジー賞を受賞した。自発的にコンテストにチャレンジするなど、主体性を養うことができた。

<委員会意見より具体的内容検討中項目>

・システム開発演習において、ドキュメント作成のレベルが、学年の中で差があるよう感じた。上級生がレビュアーになるような授業を取り入れると、双方に良い効果が期待できる。

⇒今年度のPBLによるシステム開発演習にて作成するシステムおよびドキュメントを次年度の学生に引き継ぐ。その際に上級生が下級生にアドバイスする機会を設ける予定。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
システム業界で即戦力で活躍できる技術者を育成するために、システム設計に関する実践的な授業内容の改善・工夫のために、システム業界でソフトウェア開発に関する業務コンサル、システム設計、開発、運用監視、Webコンテンツ作成を主要業務に携わっている技術力の高いシステムエンジニアとして活躍している方から、システム設計に対する直接助言や協力が得られる体制をとることが可能な企業様を選定し、講義していただく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
授業科目の担当教員と連携企業の講師がシステム設計書作成前に事前の打ち合わせを行い、演習期間中は、担当教員の指導のもと段階ごとにシステム設計書の作成を行い、月に一度、連携企業の講師の方に来校していただき、プレゼンテーション後に確認・指導・改善を行う。演習終了時には、連携企業の講師の方にグループ単位の評価をふまえ、担当教員が成績評価（4段階評価）、単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
応用システム開発	システムエンジニア・プログラマーとして即戦力となる人材を育成することを目的に学習。1年次に経済産業省 基本情報処理技術者試験取得を目指し学んだシステム開発の用語知識や理論だけでなく、演習を通じシステム設計のドキュメントを作成する力を身につける。卒業時にはシステムの企画・設計・プログラミングまで通して行えることを目的とする。演習として数人のグループでシステムの企画、基本設計書～外部設計書の作成を行い、連携企業の講師の方によるシステム作成における留意点や作成上のポイント等の講義指導を受ける。	株式会社システムエンタープライズ

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
システム業界で即戦力となる技術者育成のため、ソフトウェア開発企業を中心とした企業と連携し、現場における業務を体験し今後のシステム開発技術者としてのスキル向上を目指す。また、連携企業様についてはソフトウェア開発についての仕事全般が体験でき、システムエンジニア、プログラマーとして活躍している方からシステム開発に対する直接助言や協力が得られる体制をとることが可能な企業様を選定している。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
主に担任教員が実習内容の詳細について連携企業と受入の確認と調整を行う。実習期間中は学科教員が各連携企業を訪問し、学生の状況を確認するとともに、実習担当者と情報交換を行う。実習終了後には、実習担当者による学生の学修成果の評価と、実習日誌などをふまえ、担任教員が成績評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
キャリア実習Ⅰ	実社会で、即戦力として活躍できる人材を育成することを目的に、1年次後期に企業で実習を行う。授業を通して学んできたことを、理論と実践の相互関係を理解し、基礎的な知識・技術力を身につける。実習内容は、基本的に受入企業様の指示に従い、担当者の方々の指導のもと、実習を行う。	ウェブクリエイティブ株式会社、ビーブルソフトウェア株式会社、エクシードシステム株式会社、システムプロダクト株式会社 等 全21社
キャリア実習Ⅱ	実社会で、即戦力として活躍できる人材を育成することを目的に、2年次後期に企業で実習を行う。授業を通して学んできたことを、理論と実践の相互関係を理解し、応用的な知識・技術力を身につける。実習内容は、基本的に受入企業様の指示に従い、担当者の方々の指導のもと、実習を行う。	日本サード・パーティ株式会社、株式会社テクノモバイル、株式会社アルク、セリオ株式会社、株式会社トスコ 等 全17社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員の資質向上や専門分野の知識向上を目的とし、学内研修・学外研修・自己啓発研修等の年間研修計画を立て、学科教員が受講する。また、研修受講後は、研修報告書の作成と他関係者に対する研修内容の共有を行う。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

・主催：一般社団法人 全国専門学校情報教育協会
・日程：令和1年8月29日～8月30日
・参加者：藤井 克俊
・研修名：AI(人工知能)・機械学習の活用技術研修会
一般社団法人 全国専門学校情報教育協会は、全国の情報系専門学校が教育の成功事例や取り組みなどを共有し、より専門性の高い教育を目的とした一般社団法人で、研修会を通して情報交換や教員のレベルアップを図っている。本校もこの研究会に加盟しており、他校との情報交換や教師のレベルアップを図っている。今回の研修では、人工知能と機械学習について、その概要と代表的な活用事例および手法を共有し、機械学習を用いたデータ分析プログラミングを体験することで、実践的なスキルを身につけた。

・主催：一般社団法人 全国専門学校情報教育協会
・日程：令和2年2月20日～2月21日
・参加者：藤井 克俊
・研修名：教務・広報向け データサイエンス統計研修
一般社団法人 全国専門学校教育研究会は、全国の専門学校が教育の成功事例や取り組みなどを共有し、より専門性の高い教育を目的とした一般社団法人で、研修会を通して情報交換や教員のレベルアップを図っている。本校もこの研究会に加盟しており、他校との情報交換や教師のレベルアップを図っている。今回の研修では、実践的なデータサイエンスを用いた分析手法を共有し、授業で展開するために必要な知識を学んだ。

②指導力の修得・向上のための研修等

・主催：PHP研究所
・日程：令和2年9月28日(土)
・参加者：伊藤 宏一郎、藤井 克俊、山本 隆之
・研修名：PHPの取材で得たいい話
PHP研究所は、「物心両面の調和ある豊かさによって平和と幸福をもたらそう」という願いのもと、さまざまな活動が展開している。本校は創立当初から心豊かな人材の育成に力を入れ、「心の教育」にも積極的に取り組んだ結果、1997年に日本初の「心の教育モデル校」の指定を受けている。今回の研修では、心の教育のツールとしてPHPの活用方法を学ぶことを目的としたものである。著名人へのインタビューの経験談や他社におけるPHPの活用事例を聞くことで、PHPの活用方法を学ぶことができた。

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

・主催：
・日程：未定
・参加者：伊藤 宏一郎
・研修名：
一般社団法人 全国専門学校教育研究会は、全国の専門学校が教育の成功事例や取り組みなどを共有し、より専門性の高い教育を目的とした一般社団法人で、研修会を通して情報交換や教員のレベルアップを図っている。本校もこの研究会に加盟しており、他校との情報交換や教師のレベルアップを図っている。

②指導力の修得・向上のための研修等

主催：株式会社 進研アド
日程：令和2年8月下旬～9月予定
参加者：伊藤 宏一郎、山本 隆之、岡本 和也
研修名：「基礎力リサーチ」フィードバック教師研修
株式会社 進研アドは、入学者に対して、入学時及び進級時に学びの定着化を図ったり、退学予防に役立てたりすることを目的とした「基礎力リサーチ」を提供していただき、本校と連携をしている。株式会社 進研アドが、「基礎力リサーチ」結果をもとにさまざまな角度から分析した結果を各学科の担任にフィードバックを行い、今後の学生指導に役立てるための研修である。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己評価の評価結果について、学校関係者として卒業生、保護者とともに企業等による評価を行い、自己評価結果の客観性・透明性を高める。また、本校の教育方針である「即戦力となる人材育成」「ビジネスマンにふさわしい人格形成」「ニーズに対応したカリキュラム」に基づき、地域社会に貢献できる人材の育成に結び付けるために、関係者の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図ることを目的とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受け入れ募集	学生の受け入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の順守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	現在はありませぬ

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

担任制、卒業生の社内での評価などは、良い評価をいただいたので、今後も退学防止などの課題に取り組んでいく。特に、教師の力量による差が、退学、就職などすべてに影響するため、その差を解消できるように教員研修を継続する。また、非常勤教師の採用も行い、学生サービスの充実を図る。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
宮崎 栄一	株式会社 創明コンサルティング・ブレイン 代表取締役	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
仲田 錠二	株式会社ユナイテッドサーブ 代表取締役	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	卒業生・企業等委員
松本 武司	有限会社シルク 代表取締役	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	PTA
河原 秀明	医療法人創和会 しげい病院 医療支援部 総務課 課長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
近藤 正晃	株式会社 ホテルグランヴィア岡山 総務部総務人事課 課長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
岡崎 多美子	学校法人 朝日学園 朝日塾幼稚園 教育アドバイザー	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
磯谷 賢二	リコージャパン株式会社 中国事業本部岡山支社 アシスタントマネージャー	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	卒業生・企業等委員
石橋 史恵	ウェブクリエイティブ株式会社 代表取締役	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
高松 聖	株式会社 スカイリンク 岡山制作部長	平成31年4月1日～令和3年3月31日(2年)	企業等委員
安田 正人	自衛隊香川地方協力本部東讃区隊長	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	地方公共団体等委員
畑 嘉昭	株式会社 トスコ 取締役	令和2年4月1日～令和3年3月31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他() ()

URL:<http://www.oic-ok.ac.jp/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針やキャリア教育、職業教育をはじめとした教育活動等の状況を提供する。また、それぞれの学科の目標検定や就職実績についても情報を提供し、公的な認可を受けた教育機関として誠実な対応を行い、説明責任を果たす。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	OICの教育方針、心の推進プロジェクト、プライバシーポリシー(個人情報保護法)
(2) 各学科等の教育	目指す業界・職種、目指す資格と資格取得実績、就職実績、カリキュラム
(3) 教職員	教職員数、教員の組織、教員の専門性、教職員の研修
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職支援等への取り組み支援、企業等との連携による取組・キャリア教育への取組
(5) 様々な教育活動・教育環境	教育活動・校舎、施設紹介、学校行事、課外活動
(6) 学生の生活支援	学生支援への取組状況(スクールカウンセラー)
(7) 学生納付金・修学支援	学納金、独自の奨学金制度・学費支援制度
(8) 学校の財務	財務状況
(9) 学校評価	学校評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL:http://www.oic-ok.ac.jp

授業科目等の概要

(工業実務専門課程 情報スペシャリスト学科) 令和2年度 1年生															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			コンピュータ概論Ⅰ	テクノロジー分野（基礎分野）に関する知識の学習。 経済産業省 基本情報処理技術者の午前分野合格レベルの学習。	1前期	60	3	○	△		○		○		
○			コンピュータ概論Ⅱ	テクノロジー分野（応用分野）に関する知識の学習。 経済産業省 基本情報処理技術者の午前分野合格レベルの学習。	1前期	60	3	○	△		○		○		
○			コンピュータ概論Ⅲ	マネジメント・ストラテジに関する知識の学習。 経済産業省 基本情報処理技術者の午前分野合格レベルの学習。	1前期	60	3	○	△		○		○		
○			アルゴリズム概論	プログラムの処理手順の学習。 経済産業省 基本情報処理技術者の午後分野合格レベルの学習。	1前期	75	5	○	△		○		○		
○			C言語Ⅰ	C言語の知識学習 (基本文法から、関数)	1前期	63	4	○	△		○		○		
○			C言語実習Ⅰ	C言語プログラミング演習 (基本文法から、関数)	1前期	42	1	△		○	○		○		
○			ビジネスアプリケーション実習	Excelの基本操作から関数の使い方を学ぶ。	1前期	30	2	△		○	○		○		
○			情報リテラシー	演習を通じて情報技術の基礎知識について学習する。 経済産業省 基本情報処理技術者の午前分野合格レベルの学習。	1前期	39	2	○	△		○		○		
○			C言語Ⅱ	C言語の知識学習 (ポインタから構造体)	1後期	42	2	○	△		○		○		
合計					科目	単位時間(時間)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業実務専門課程 情報スペシャリスト学科) 令和2年度 1年生															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			通信ネットワーク・セキュリティ I	ネットワークの役割や基礎知識、ローカルエリアネットワーク・通信規約・通信機器・セキュリティの基礎知識・関連法規などを学ぶ。	1後期	24	1	○			○				
○			データベース概論	データベースの基礎理論やデータベース管理システムの役割・SQLなどの基礎知識を学ぶ。	1後期	16	1	○	△		○				
○			C言語実習 II	C言語プログラミング演習(ポインタから構造体)	1後期	40	1	△		○	○				
○			Webサイト制作 I	HTML5、CSSを使用してWebページの開発を学ぶ。	1後期	40	2	○		△	○				
○			PBL入門	多彩なパーツとセンサーを用いて組み立てるレゴ®マインドストームを使用し、組み込み技術の基礎を学習することで、問題解決力と論理的思考力を育成する。	1後期	40	1	△		○	○				
○			Linux	インターネットサーバーとして、企業などで多く採用されているオペレーティングシステムであるLinuxの基礎を学習する。	1後期	24	1	○	△		○				
○			ビジネス実務 I	新入社員として必要なマナーの学習。就職活動における立居振舞、面接指導。	1通年	60	4	○	△		○				
○			ペン字	硬筆検定3級合格レベルの演習 手書き履歴書作成のため。	1前期	15	1			○	○				
○			キャリア実習 I	実際の現場で実習することにより理論と実践の相互関係を理解し、基礎的な知識・技術力を身につける。	1後期	90	2			○	○				○
合計				科目	単位時間(時間)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業実務専門課程 情報スペシャリスト学科) 令和2年度 2年生															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			J a v a I	Javaプログラミング、オブジェクト指向の基礎知識の学習と演習を行う。	2 前期	70	4	○	△		○	○			
○			We b サイト 制作Ⅱ	ブラウザ上でのオブジェクトの操作など、javascriptの基礎知識の学習とプログラミング演習。	2 前期	42	2	○	△		○	○			
○			P H P	サーバーサイド・スクリプト言語であるPHPを使って、Webサーバ上で動作し、要求されるたびにスクリプトを実行するプログラミングを学ぶ。	2 前期	42	2	○	△		○	○			
○			通信ネットワーク・セキュリティⅡ	ネットワークの役割や基礎知識の学習、エミュレータを用いた演習などを行う。	2 前期	42	2	○	△		○	○			
○			基礎システム 開発	オブジェクト指向を用いたシステム開発の要件定義から設計工程における設計書の作成演習を行う。	2 前期	42	2	○	△		○	○			
○			V i s u a l C # . N E T	.NET Frameworkを利用した、標準コントロール、複数フォーム、通信ネットワークのプログラミング演習を行う。	2 前期	42	2	○	△		○	○			
○			プレゼン テーション 技法	効果的な発表を行うためのプレゼンテーション技法と、実社会において必要なパワーポイントの技法を習得する。	2 前期	42	2	△	○		○	○			
○			PBL応用Ⅰ	チームを組んでシステム構築演習を実施する。システム企画から、要件定義、基本設計を行う。	2 後期	64	2	△		○	○	○			
○			J a v a Ⅱ	Javaプログラミング、APIの利用方法の学習と演習を行う。	2 後期	40	2	○	△		○	○			
合計			科目		単位時間(時間)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業実務専門課程 情報スペシャリスト学科) 令和2年度 2年生															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			スマホアプリ開発	スマートフォンのアプリケーション開発手法を学習する。	2後期	40	2	○	△		○		○		
○			英会話Ⅰ	グローバル社会を見据え、業務に必要な英語での基礎的な会話法を学習する。	2後期	16	1	○			○		○		
○			ビジネス実務Ⅱ	一般常識や適性試験対策学習を継続しながら、エントリーシートや履歴書を完成させ、就職活動の準備を整える。	2通年	60	4	○			○		○		
○			キャリア実習Ⅱ	実際の現場で実習することにより理論と実践の相互関係を理解し、基礎的な知識・技術力を身につける。	2後期	120	2			○		○			○
	○		情報処理技術者Ⅱ(基本情報)	経済産業省 基本情報技術者合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	2前期	108	3	△	○		○		○		
	○		情報処理技術者Ⅱ(応用情報)	経済産業省 応用情報技術者合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	2前期	108	3	△	○		○		○		
	○		情報処理技術者Ⅱ(情報処理安全確保支援士)	経済産業省 情報処理安全確保支援士合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	2前期	108	3	△	○		○		○		
	○		情報処理技術者Ⅱ(データベース)	経済産業省 データベース技術者合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	2前期	108	3	△	○		○		○		
	○		情報処理技術者Ⅲ(基本情報)	経済産業省 基本情報技術者合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	2後期	108	3	△	○		○		○		
合計				科目	単位時間(時間)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業実務専門課程 情報スペシャリスト学科) 令和2年度 2年生															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			情報処理技術者Ⅲ(応用情報)	経済産業省 応用情報技術者合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	2 後 期	108	3	△	○		○	○			
○			情報処理技術者Ⅲ(情報処理安全確保支援士)	経済産業省 情報処理安全確保支援士合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	2 後 期	108	3	△	○		○	○			
○			情報処理技術者Ⅲ(ネットワーク)	経済産業省 ネットワーク技術者合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	2 後 期	108	3	△	○		○	○			
○			医療事務	保険制度のしくみを理解、保険請求業務の点数算定を学ぶ。	2 後 期	16	1	△	○		○	○			
○			FP	FPについての基礎知識を学ぶ。ライフプランニングと資金計画、不動産、相続・事業承継、等々	2 後 期	16	1	○			○	○			
○			レイアウトデザイン	チラシや名刺などデザインするための基礎的な知識とセンスを身につける。	2 後 期	16	1	△	○		○	○			
○			HP動画	HPや動画を制作するための基礎的な知識やセンスを身につける。	2 後 期	16	1				○	○			
○			表現	幼児教育における5領域「表現」に基づき、身体を使った表現や造形表現活動を学ぶ。また、その活動を通して表現力を身に付ける。	2 後 期	16	1	△	○		○	○			
○			ロボット制御	人型のロボットを題材にプログラミングを行い、プログラムの思考力を養う。	2 後 期	16	1	△	○		○	○			
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業実務専門課程 情報スペシャリスト学科) 令和2年度 2年生															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			Excel実務	実務の場面を想定したExcelの使用方法について学習する。	2後期	16	1	△	○		○	○			
○			一般知能	数的推理・判断推理・資料解釈を論理的な思考から、解答する力を答練を通じて身につける。	2後期	16	1				○	○			
○			健康管理	人体の仕組みと代表的な病気の予防について理解し、健康管理の基礎を学ぶ。	2後期	16	1	○			○	○			
○			ロジカルシンキング	グループワークやディスカッションを通じて、論理的思考に用いられるフレームワーク(考え方)を学ぶ。	2後期	16	1	△	○		○	○			
○			ビジネス英語	ビジネスの場で簡単な英語が話せる力や、メール文章を書く能力を身に付ける。	2後期	16	1	○	△		○			○	
○			ペン字上級	1年生で学んだ美しい文字を書くことの大切さをより深く理解する。ひらがな、カタカナの成り立ち、漢字基本点画、部首、筆順の解説により、バランスのとれた字形(行書体も含む)を学ぶ。また、筆ペンの使用も学ぶ。	2後期	16	1	△	○		○		○		
○			応用文章技能	文章を書くための素材を集めるポイントや文章の構成などを講義するとともに、毎回、テーマに即した文章を書くこと(添削あり)を通じて、実践的な文章技能の習得を目指す。	2後期	16	1		○		○	○			
○			フラワーアレンジメント	ブーケ、ブートニア、ヘッドフラワー、会場装花を製作する。	2後期	16	1	△	○		○		○		
合計					16科目		894単位時間(36単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業実務専門課程 情報スペシャリスト学科) 令和2年度 3年生															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			PBL実践	実社会にある様々な社会問題をテーマとして、問題解決を図るためのシステムを開発する総合実習を行う。	3 前期	112	3	△	○	○	○				
○			先端技術活用	機械学習やGISなどの現場で活用される新技術について、演習を通じて知識やスキルを身につける。	3 前期	42	2	○	△		○	○		○	
○			JSP/サーブレット	JSPとサーブレット利用方法の学習とプログラミング演習。	3 前期	70	4	○	△		○	○			
○			AI概論	AIに関する基礎知識と利用用途について学ぶ。	3 前期	42	2	○	△		○	○			
○			プロジェクトマネジメント (PMBOK)	ITエンジニアが知るべきプロジェクトマネジメントの知識やスキルを学ぶ。	3 前期	28	1	○			○	○			
○			卒業研究 I	3年間の集大成として総合的なアプリケーションを開発する。企画から要件定義、基本設計を行う。	3 後期	111	3	△		○	○	○		○	
○			卒業研究 II	3年間の集大成として総合的なアプリケーションを開発する。詳細設計から製造、テスト、リリースを行う。	3 後期	126	4	△		○	○	○		○	
○			英会話 II	日常英会話ができるように声に出しながら、表現できるように学習する。	3 前期	28	1	○	△		○	○			
○			親学	親としてすべきことを学び、さらに人としての成長を目指し、人間力を高めるライフデザインを学ぶ。	3 後期	16	1	○	△		○	○			
合計				科目	単位時間(時間)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業実務専門課程 情報スペシャリスト学科) 令和2年度 3年生															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ビジネス実務Ⅲ	受験企業の研究、時事問題対策、面接訓練など、より実践的な就職活動のトレーニングを行う。	3 通年	66	4	○	△		○		○		
	○		情報処理技術者Ⅳ（基本情報）	経済産業省 基本情報技術者合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	3 前期	108	3	△	○		○		○		
	○		情報処理技術者Ⅳ（応用情報）	経済産業省 応用情報技術者合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	3 前期	108	3	△	○		○		○		
	○		情報処理技術者Ⅳ（情報処理安全確保支援士）	経済産業省 情報処理安全確保支援士合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	3 前期	108	3	△	○		○		○		
	○		情報処理技術者Ⅳ（データベース）	経済産業省 データベース技術者合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	3 前期	108	3	△	○		○		○		
	○		情報処理技術者Ⅴ（基本情報）	経済産業省 基本情報技術者合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	3 後期	108	3	△	○		○		○		
	○		情報処理技術者Ⅴ（応用情報）	経済産業省 応用情報技術者合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	3 後期	108	3	△	○		○		○		
	○		情報処理技術者Ⅴ（情報処理安全確保支援士）	経済産業省 情報処理安全確保支援士合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	3 後期	108	3	△	○		○		○		
	○		情報処理技術者Ⅴ（ネットワーク）	経済産業省 ネットワーク技術者合格レベルの学習。適宜模擬試験を実施し、実力の確認と養成を行う。	3 後期	108	3	△	○		○		○		
合計					12科目	857単位時間(31単位)									
					総科目 50科目	総時間 2679時間(109単位)									
卒業要件及び履修方法									授業期間等						
次の項目を全て満たすこと ・必修50科目、総時間2679時間を履修すること ・出席率90%以上 ・科目の成績評価が全てC以上 ・卒業基準検定に合格（情報処理技術者能力認定試験2級、C言語プログラミング能力認定試験2級、Java™ プログラミング能力認定試験2級のうちいずれか一つ合格）すること									1学年の学期区分			2期			
									1学期の授業期間			15週			

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。